

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム翔里
(ユニット名)	茗番館
所在地 (県・市町村名)	長崎県平戸市津吉町1051
記入者名 (管理者)	田口 恵子
記入日	平成 20 年 2 月 15 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	事業所が独自でつくりあげた理念ではあるが、難しく地域密着型サービスとして何が大切かを一度話し合い検討の必要がある。	○	職員一人ひとりが、地域密着型サービスを思い描ける様な理念をつくりあげていくことが課題だと思われる。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	毎日の申し送り時、全職員運営理念の唱和を行なっているが、言葉が難しくなかなか理念を具体化していくことができていない。	○	せっかく毎日唱和をして浸透しているのでわかりやすい理念を作り替え日々の中でもっと何を大切に利用者様に向き合うか話し合っていきたい。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	玄関へ運営理念の貼付、年に4回発行される広報紙に載せ、ご家族、地域の方々へ配布して読んでいただいているが、ご家族の方へ繰り返し説明は行なっていない。	○	地域の方々へ密着したサービス事業所として理解していただけるよう会合などを通して伝えていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	散歩に出かけ、挨拶をしたり、していただいたりしてコミュニケーションを図っている。地域で採れた野菜なども持って来ていただきごちそうになったりしている。		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	地域のイベント(運動会・文化祭・茶市など)に参加し、利用者様も喜んでいただいている。地域の保育園、小学校、中学校の慰問があり交流を深めることが出来ていると思われる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の老人会、いきいきサロン会合に出向き、介護保険についてお話しさせていただき、理解していただけるよう努めた。また、地域の学生さんの見学・実習も受入人材育成に役立てるようにしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を全職員に伝えて検討しているが、実践につながっているとは言えない。	○	サービス評価を実施するにあたり、評価の意義とねらいについて職員と話し合い全員で自己評価に取り組んで生きたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、実際に行なっていない。現在参加していただけるよう働きかけている。	○	幅広い立場の人が参加する会議として参加される方々が、意義や役割を十分に理解して積極的に参加していただけるよう、早急に検討していく必要がある。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所の運営について出向いて市町村の窓口で伝えているとは言えない。	○	事業所の考え方や実態を市町村担当者によく知っていただき考え方や実態を共有していきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	実際に権利擁護を使われている利用者様がいらっしゃる時、職員への説明が十分だったとは言えない。	○	管理者も職員へ十分説明が出来るよう地域の勉強会など積極的に参加していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法を十分理解しているとは言えない。	○	勉強会やミーティング等を実施し、高齢者虐待防止法に関する理解浸透や遵守に向けて取り組むよう努力したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約を解約する際は、時間は十分にとり丁寧に説明している。利用者様の状態変化により解約み至る場合も本人様、ご家族の方を交えて行なっている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者様の苦情は、朝のミーティングなどで話し合う様にしているが、介護相談員の派遣までは至っていない。</p>	<p>○</p> <p>介護相談員の訪問を受け入れるなど、利用者様が外部に声を出せる機会を作っていく検討をしたい。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>受診の結果、出納帳等来所された時は報告したり、見ていただいたりしている。受診結果、必要に応じて即対応も行なっている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情への対応で終わりではなく、質の向上に向けて取り組み不足。</p>	<p>○</p> <p>家族会などで何でも言ってもらえるようまずは家族会開催が課題。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に1回はミーティングを行ったり、申し送り時の(毎日)ミーティングを行い意見交換しているつもりだが運営や、不満については、十分聴く機会を設けたり、反映させるところまで至っていない。</p>	<p>○</p> <p>月に一度は明細書を渡す時、時間を取り話はしているが、もう少し意見や不満を聞けるようところにも余裕をもっていきたい。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>受診、イベントなど忙しい時には、日勤者を1名～2名増やしたり、急用で休む場合も、職員の協力で確保することが出来ている。しかし、管理者は、シフトに入っているような状況である。</p>	<p>○</p> <p>職員の体制や、臨機応変な対応について、管理者と職員で話し合いながら無理のない勤務に工夫することができているが(職員に対して)管理者がシフトに入らないようにすると余裕があると思うが、いつもというわけにはなかなか。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>頻繁な勤務交代、職員の移動もなく固定化され馴染みの職員で対応することが出来ていると思われる。別の部署から応援してもらう場合は、紹介して現場に入ってもらっている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の時は、仕事に支障をきたさないように研修機会を確保することができている。又、研修報告も勉強会のときに行なうようにしている。しかし、まだまだ研修会に出かける機会が少なく感じる。	○	施設内勉強会も月に1回～2回行うことが出来ているが、質の向上を目指すために技術や知識を身につけよう少し研修会へ参加できるようにしていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡会への参加はなかなか出来ていない。事業所の質の確保のために同業所との交流や連携が不可欠であることを認識しもっと交流を深めることを求められる。	○	事業所の質の向上を目指すために運営者、管理者、職員が同業者と勉強会・ネットワークを組み取り組んでいけるようにしていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員のストレスや背景を理解していけるよう常にコミュニケーションを図るように努めている。また、休憩室を確保することができ、職員同士の人間関係を把握するように努めている。	○	職員にストレス、不満を感じさせないようコミュニケーションをとるようにしているが、完全に受け入れてあげているとは思っていない。まだまだ力不足だと思うので気分転換を図れる機会をつくってきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、なかなか現場へ足を運ぶことが少なく現場の状況、職員の状況をすべて把握しているとは言えない。	○	運営者へもっと現場、職員の状況など積極的に伝えていき、向上心をもって働けるような配慮や対応をしていく必要がある。運営者が現場へ足を運んでくれるよう働きかけていきたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前の面談の時、ご本人、ご家族との十分な話し合いの時間を設け、生活状態を把握するように努めている。また、職員へも伝え、本人に受入られるように努めている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談をされるご家族の立場に立って、ご家族の体験や思いを理解しながら事業所としてどのような対応が出来るか事前に話し合いをしている。家族の状況を把握することによって信頼関係を作ることにつなげるよう努力したい。	○	入居前(相談時)十分な時間をかけご家族の体験や思いを理解しようとしているが、まだまだご家族の満足に繋がっているか今後の課題である。もっと努力したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス 利用も含めた対応に努めている	困っていることや不安なことに対して見極め、事業所として出来る限り 対応するには努めている。無理な時は、他のサービス機関に繋げる ように努力している。	○	困っていること、不安なことは、見極め、事業所として 出来る限りの対応はしているがご本人、ご家族が 満足されているかは問われる。もっと満足できるよう にしていく。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用 するために、サービスをいきなり開始するの ではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気 徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工 夫している	ご本人やご家族へ申し添えていただく前に見学かねて来ていただき、そ れからスタッフが自宅へ出向き納得されてから見極めて利用に移行し ている。やむを得ない時は、面会をお願いしたり安心して生活してい ただけるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本 人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご本人の思いを知ることに努め、暮らしの中で分かち合いながら共に生 活できるよう留意している。人生の大先輩であり、学ぶことが多々あつて 楽しく日々を過ごしていただけるようにしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えて いく関係を築いている	利用者様の状況はご家族へ伝えていくようにしており、時間はかかる が、ご家族と職員が徐々に重なり本人を支えていくために協力関係が 築けるようになっていく。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努 め、より良い関係が築いていけるように支援し ている	イベントの時には事前に声をかけ参加していただけるようにしている が、なかなか参加までにつなげることが出来ていなかった。面会にも足 を運んでいただけるように声かけも心がけている。	○	参加していただけるよう管理者としてもっと努力をし ていかなければと痛感している。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や 場所との関係が途切れないう、支援に努め ている	知人へ電話したいといわれた時には、電話していただき会話して楽し まれている。理髪は、ご本人の了解を得て事業所で行なっているが、 中には行きつけの理髪店へ出かけている方もいる。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤 立せずに利用者同士が関わり合い、支え合え るように努めている	利用者様同士が共に助け合って支えあつて利用者様同士の人間関係 もうまくいっているとうかがえる。これからも、利用者様が信頼関係を保 てるように見守っていききたい。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	事業所を退居される時、特別養護老人ホーム・病院へと転移される方が殆どで施設のレクレーションの時はお会いするkとが出来たり、病院へ入院されている方は、面会に行ったりすることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ゆっくりとした時間に「今の生活は、楽しいですか?」「どんな生活がしたいですか?」「誰か会いたい方はいませんか?」と話すことがある。	○	ゆっくりと利用者様とお話して暮らし方の希望・意向の把握に努めているが、全員のご家族の方へ伝えられるようにしたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様が自分らしく暮らしていけるように、その人独自の生活歴やライフスタイル・個性や価値観などを把握できるよう、ご家族、ご本人からの情報を大切にしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者様一人ひとりの生活リズムを理解するとともに、小さい動作を見ながら残存能力を引き出してあげることが出来るように努めなければと思っている。	○	見落とされやすいご本人の力、分かる力を暮らしの中で発見していくことに努め、残存能力を活かすことができるようにしたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者様が自分らしく生活できるようご本人やご家族の要望を聴き、スタッフ全員でミーティングを開きケアについて話し合っているが、介護計画の作成に十分活かさきれていない。	○	せっかくミーティングの場で意見交換しケアを行なっていることを、介護計画に盛り込み活かすようにしたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の作成が不十分で見直しも完全とは言えない。利用者様、ご家族の状況、ニーズ、サービス提供がずれないようにする為、もっと介護計画作成を行なっていく。	○	満足できるケア・サービスが出来るよう、職員と一丸となって介護計画作成を行なう。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録は、バイタルの変化、排泄チェック、利用者様の状況、食事量のチェック等記録に記入し、職員が確認できるようにしており、勤務開始前の確認は義務付けている。職員間の情報の共有を徹底化している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所は、グループホームのみではなくショートステイ、デイサービスを行なっていない。通院・送迎等必要な支援は柔軟に対応し個々の満足度を高められるよう努力している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者様が安心して地域での暮らしを続けられるよう、保育園・小学校・中学校・消防署などの協力を呼びかけている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご本人やご家族の意向や必要に応じて、他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、ご家族へも伝達しながら利用するための支援を行なっている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	利用者個々の権利擁護や、総合的・長期的なケアマネジメントなど、事業所のみで解決困難な状況に応じて地域包括支援センターと連携を図りながら個別支援を行っていない。	○	認知症の人を地域で支えるために、運営推進会議を早期に設置しなければならない。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人ひとりの利用前の受診の経過・現在の受診の希望を把握して、医療機関による受診の支援が出来る。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医等、認知症に詳しい医師は、地域におられず、主治医や精神科医へ受診し相談を行なっている。	○	地域事業者と共に検討していく必要があるのだろうと思います。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	普段より状態を把握している看護職や地域の協力医療機関の看護職と気軽に相談できる関係にある。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院の際、必要な情報提供を行い、職員が「お見舞いに行き医療機関の看護職、ご家族と蜜に情報交換することができ、退院へと結びつけるよう努力している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合、ご本人、ご家族と十分な話し合いの場を設け、納得されるまで話し合いすることができている。職員も共有することができ支援できていると思われる。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご本人、ご家族の方と十分な話し合いを行い、本人の気持ちを配慮しながら支援をしている。状態変化された場合、医療機関の対応を確認しながら支援している。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移り住む際、グループホームでの生活状況を伝え、継続できる支援を受けられるよう情報提供をおこなっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	○	<p>秘密保持・プライバシーの保護の重要性をもっと職員へ伝えていき、徹底していきたい。</p>
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	○	<p>利用者様の嗜好をもっと理解していく必要がある。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェックを行い、尿意のない利用者様にも時間を見計らって誘導している。失禁される方には、ショーツに尿パット着用で対応している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一日交代で入浴と清拭・シャワーをおこなっている。入浴されない日は、清拭かシャワー浴であるが、「昼間」に入浴されており、普段家庭だと「夜」に入浴するので今後どうするか課題である。	○	夕方に入浴することになると勤務時間など変更が必要で結論が出ていない。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるようつとめている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの得意分野があり、力を発揮してもらえるようお願いできそうな仕事を頼み、感謝の気持ちを伝えた時には、満足そうな笑顔をみせてくれる。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員とはいえないが、小額を手元に持つことの可能な方は、持って買い物へいき支払いをされている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気、本人の気分や希望に応じてドライブなどに出かけ、季節感を肌で感じていただいている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	地域の福祉祭り、花見など職員の勤務調整を行ないながら出かけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書くことはなかなかされないが、電話を希望される方はいらっしゃるので取次ぎをおこなっている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	出来るだけ利用料の支払いに毎月見える時に面会していただけるように声掛けを行なっている。面会時には、ゆっくり過ごしていただけるよう居室か談話室で過ごしてもらっている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングや日々の申し送り時などで、その日のケアを振り返り、身体拘束をしないケアを行なっているか話し合っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者様が、外へ出かけようとする時は、玄関の鈴の音が鳴りさりげなく声掛けをして話をゆっくり聴き同行している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	勤務交代時は、人数の把握をし、引継ぎをして交代している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状態から予測される危険を検討し、事故を未然に防ぐために工夫している。例えば、転倒・転落など。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故やヒヤリハットに関する報告、記録をされたらその日のうちに勤務スタッフだけでも話し合いを行い、再び起こらないようにしなければと思う。	○	未然に防げたがハットしたものにヒヤリハット、事故が起こってから事故報告書を記入しているが、ただ記入するだけでなく原因を追究し予防対策について検討していく必要がある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	B.L.Sを行い急変時対応に役立つよう勉強会を行っていたが、現在は、年一回消防士の方がみえて指導していただいているのみである。	○	B. L. S. は、今までのように月一回講習を行えるようにしたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の方に来ていただき避難訓練を定期的実施している。消火器や設備点検も行なわれている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	利用者様一人ひとりに起きうるリスクについて職員と話し合い拘束、施錠は絶対にせずご家族様へ説明を行い抑制感のない生活をしていただけるようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段より申し送りで利用者様の状況は把握することが出来、変化があれば必要に応じてすぐ受診の対応を行なっている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方変更の都度説明書を薬局より頂き、一人ひとりのカルテにファイルし全職員が把握するようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の予防に向けて、献立を工夫しているが、それでも便秘がある時は、下剤の処方をしていただき排便コントロール行なっている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔内の清潔保持は、職員全員が理解をし、食後は必ず歯磨き、中にはモンダミンをされている方もいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量を毎日チェックし、職員が共有している。栄養バランスに関しては、受診時採血の結果で主治医より指導をいただいているが栄養士の指導は受けていない。	○	定期的に栄養士の指導を受けながらバランス(栄養)のチェックをしていきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染委員会を設置し感染マニュアルも作成し、全職員で周知できるよう努力している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日買い物へ出かけ、買いだめをしないようにしている。冷蔵庫や冷凍庫の食材の残りの点検を必ず行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関にも花を植え、明るい雰囲気・・・と思っているが、まだ足りず工夫不足を感じる。	○	もっと工夫して玄関先のプランターを増やし明るい雰囲気の玄関になるように検討していく。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	普段人には何でもない音や光の刺激が認知症の人のストレスとなることが多いのでテレビの音、食器を洗う音、ご飯の炊けるにおいなど五感を採り入れる工夫をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファが居心地よいといわれ、ソファで談話しくつろげるスペースをつくっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある布団、棚、茶碗は持って来ていただき、個別に応じた工夫を行い自宅により近い環境で過ごせるようにしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	事業所は、気になるにおいや空気のだよみが見過ごされず、独自でEM菌を使用して清掃を徹底し換気扇と消臭剤とEM菌で悪臭が出ないように工夫している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差はなく、殆どバリアフリーで安全な環境づくりがなされている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	状態が変わり、新たな混乱や失敗が生じた場合はその都度職員一同で話し合い、本人の不安材料を取り除き、自立して生活できるよう工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	裏庭に野菜・花を植え、収穫時には一緒に畑へ出かけ楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
		○	③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
		○	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)